畑野小だより

令和３年冬休み号

めざす児童像

「は」　（はきはき話し、あいさつする子）
「た」　（たのしく遊び、勉強する子）
「の」　（のびのび元気に、がんばる子）

＜はたのちゃん＞

みんなちがってみんないい

校長　西村　雅司

11 月から 12 月にかけて、子どもたちの人権認識を高める取組を進めました。金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」を教材に、仲よし班で友達の良さに気づき、それぞれの違いを認め合うことの大切さについて学習をしました。

この学習を通して、子どもたちは

「仲よし班のみんなのことを知ることができてよかった。」

「好きなことが違っていて、みんな個性があるんだと思った。」

「自分と同じ遊びが好きだったのでまた一緒に遊びたいです。」とふり返っていました。

私たちは、「みんなと一緒」「みんなと同じ」であることにより、安心感をもつ傾向があります。そのことが時には、「みんなと同じでない」ということから、「異質なもの」として排除したりいじめにつながったりすることがあります。

私と 小鳥と すずと　金子 みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）をはやくは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴るすずは私のように
たくさんの唄は知らないよ。
すずと、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

出典／金子みすゞ童謡集「わたしと小鳥とすずと」
JULA 出版局

学校や社会は、さまざまな価値観をもった人やいろいろな人が集まって成り立っています。自分と異なる人を変わっているからと、排除したり、認めたりしないというのではなく、一人ひとりがお互いの違いを認め、お互いを尊重することが大切です。

決して「人は人、好きにしたらいい（好きにさせといたらいい）」というものではありませんし、「我関せず」という考え方に結びついてしまうものであってもなりません。お互いがより望ましい方向へ進んでいけるような関わり合いを大切にしたいものです。

８月 30 日からはじまった４ヶ月にわたる長い２学期が終わりました。子どもたちは、普段の学習はもとより、たくさんの行事に力を注いでがんばってきました。お家でも子どもたちのがんばりを一緒に振り返っていただけたらと思います。

明日から冬休みに入ります。この冬休みが子どもたちにとって安全で楽しいものになりますようにと願っています。３学期の始業式には、子どもたち全員が元気に登校してくることを楽しみにしています。どうぞよいお年をお迎えください。